

# 「戦略的な読み (strategic reading)」を行うための リーディング・スキル

池野 修

## 1. 読みのスキル・方略

第2言語(英語)での効果的な読みを可能にする要素の一つにリーディング・スキル, 読解方略(reading strategies)をあげることができる。リーディング・スキルについては, 従来から様々なものが提唱されており, 一般的に次のようなものが含まれる。

【予測 (prediction)】文章のタイトルや写真・イラストなどを利用して, 何について述べられている文章なのか, 読む前に大体的見当をつける。

【背景知識の活性化 (background knowledge activation)】文章の大体のトピックが特定できたら, 読む前にそのトピックについて自分がどのようなことを知っているのか確認してみる。

【未知語の推測 (guessing the meaning of unknown words)】知らない単語が出て来ても, 前後文脈や語彙の成り立ち (e.g. 語幹) などを利用して, 少しでもいいから (e.g. それが肯定的な意味を持つ単語なのか, 否定的な意味を持つものなのか), その単語の持つ意味を推測してみる。

【フレーズ・リーディング (phrase reading)】返り読みをせず, できるだけ英語の語順で読むようにする。必要に応じて, スラッシュ (/) を入れて英文をセンス・グループに区切りながら読む。

【代用表現の処理 (pronouns checking)】代用表現が具体的に何を示しているのかを確認する。itなどの代名詞は言うに及ばず, the other, the opposite, its counterpart, また English and Japanese → the (two) languages などの「the + 上位語」の形で言い換えなどにも注意が必要である。

【文章構成の理解 (text structure strategy)】文を超えたレベルでの意味の構成・展開に気をつける。特に論説文では, 例示, 比較・対照, 原因・結果

などのよく見られる展開パターンが存在し, それを理解するにはディスコース・マーカー (道しるべとなる表現・接続表現) が役に立つ。

【パラグラフ・リーディング (paragraph reading)】論説文を読む場合には, 「段落の最初の文 (= トピック・センテンスであることが多い) でメイン・アイデアが提示され, それについて残りの部分で詳しく述べられる」というパラグラフの内部構造のイメージを思い浮かべながら読む。なお, パラグラフとパラグラフの間の論理関係を考えることも重要である。上記の「文章構成の理解」にも関係する。

【5W1H】物語文では, 5W1H をチェックしながら読むようにする。特に, 文章は時間の流れに沿って展開することが多いので, when を示す表現はマークする必要があり, 出来事の why を理解することが深い読みを行うには極めて重要である (設問の対象にもなりやすい)。

【目的に合わせた読みの調整】どの文章も同じ読み方をするのではなく, 読む文章のタイプ (e.g. 論説文, 物語文, チラシ) や読みの目的に合わせて読み方を調整する。英語の文章を最初から順番に, 一文ずつ解釈していくという読み方は必ずしも効果的, 効率的でない場合も多い。

【スキヤニング (scanning)】チェックしなければならない情報が限られている場合は, (1) ターゲットとする情報をしっかり確認する, (2) その情報がある箇所を特定する, (3) その箇所にある情報を解釈するというステップからなる「情報検索読み」を行う。

【スキミング (skimming)】説明文・論説文は, はじめに全体にざっと目を通し, 文章のトピック, サブ・トピックや文章の大まかな展開などをつかみ (= 流し読み), その後に本格的に細部を確認しながら読むようにする。

【理解モニタリング (comprehension monitoring)】 分かりにくいのは具体的にどの部分か、自分はどの程度まで正確に理解できているのかなどを自問自答しながら読む。

【要約 (summarizing)】 段落ごとに、あるいは文章を読み終えた後に、読み取った内容を頭の中で簡潔に言い直してみる／要約して文章にしてみる。また、文章を読みながら「要するにどういうことか」を自分なりに考えてみる。情報圧縮する過程でより深い理解が促され、また読み取った内容の記憶をより確かなものにすることができる。

【情報の再構成】 読み取った内容を図解する・表に整理するなどの形で自分なりにまとめ直してみる。例えば、比較・対照の構造を持つ内容であれば、類似点・相違点などを表にまとめたりすると、理解を確かなものにすることができる。

【評価読み (evaluative reading)】 読んだ文章の内容について「自分はどう思うのか」(e.g. 賛成するのか、反対するのか) 考えてみる。

これらのスキル・方略の中には、無意識に用いているものもあるはずであるが、(i) 具体的にどのような内容のスキルなのか、(ii) どのような場合に用いれば良いのか、(iii) なぜ用いる必要があるのか等について、学習者の意識を高めることは意義があると考えられる。認知心理学では、「自分の認知に関する認知」という意味での「メタ認知 (metacognition)」という概念が用いられ、リーディングに関して言えば、自分自身がどのような読みをしているかについて意識化することに相当する。効果的な読みについて考察し、それに照らし合わせて自分のリーディングを診断してみることで、より望ましい方向に軌道修正をすることが可能になるはずである。

上記のように、リーディング・スキルには様々なものが含まれるが、これらの中で「文章構成の理解」を例として取り上げ、以下少し詳細に解説してみることにしよう。

## 2. 文章構成の理解

「文章構成の理解 (text structure strategy)」とは、節や文を超えたレベルで情報がどのように構成

されているのかを理解することに関するスキルである。特に論説文を読んでいる場合は、次のような方略が有効と考えられる。

- ・ for example が出てくれば、「例示」のパターンであり、「何の例をあげようとしているのか」を確認する。
- ・ first, second などの表現が表れたら、「列挙 (list)」であり、同列に並んでいる項目をチェックし、①②などの記号づけをしながら読む。
- ・ 文頭に Certainly とか It may be true that... などの表現が見られる場合は、しばしば「譲歩」を示しており、後に but や however などマークされる「本当に言いたいこと」が出てくる可能性が高いので、この展開を踏まえた上で読む。
- ・ ある「問題 (problem)」が指摘・提示されたら、その「原因 (cause)」と「解決法 (solution)」の部分をしっかり押さえる。

論説文にはある程度決まった展開パターンがあるので、キーとなる表現が認定できれば、それ以降の文章がどう展開していくのかを「予測」できる場合もある。例えば、文章のタイトルが“The story of tea”などであれば、その文章は「時間的順序 (time order)」のパターンをとって展開することが分かるし、“The real meaning of happiness”などであれば、「一般に言われていること→筆者が言いたいこと」(= happiness とは一般にこう考えられている→本当の happiness とはこういうものである) という構成になると予想できるはずである。

また、段落の最初の文(=論説文ではメイン・アイデアを含むトピック・センテンスである場合が多い)がその段落の構成を示している場合もある。“There are various things we can do to protect the environment.”のように、段落の最初の文に“various ...” “several ...”などの表現が含まれていれば、その段落で「具体例」が述べられるはずである。(もっとも、そのような表現がない場合であっても、論説文におけるパラグラフは「大まかなこと→具体的なこと」という構造をとる場合が多い。)

以下の文章を読んで、これ以後どのようなことが述べられるのかを予想してみよう。

People have always disagreed about the best way to educate children. Some think that students should learn basic knowledge before developing creativity and independent thinking.

この例では、最初の文で People have always disagreed... とあり、次の文が Some think... となっているので、「比較・対照」の展開であることが分かり、おそらくこの後 Others think... という表現を用いて、第2文とは対照的な内容の情報が提示されると予想できるはずである。

文章構成を理解するには「ディスコース・マーカ（discourse marker）」が役立つ場合が多い。ディスコース・マーカとは、論理展開を明示的に示す表現、いわば「道しるべ」となる表現である。次のディスコース・マーカの前後はどのような論理関係になっているかを考えてみよう。

- (1) that is
- (2) in addition
- (3) on the contrary
- (4) as a result

これらの表現は、文章がこれからどのように進むのかを明示しており、上の練習問題の答えは次のようになる。（意外と知られていないが、(3) の on the contrary は「そうではなくて」という意味になる場合が多いことにも注意したい。）

	前の内容	後の内容
(1)	ある概念・内容	その概念の定義 その内容の言い換え
(2)	列挙されている 1つ目	列挙されている 2つ目
(3)	正しくない内容	正しい内容
(4)	原因	結果

このように、「文章構成の理解」に関するスキルには、文章のタイトル等を利用して展開を予想する、ディスコース・マーカに注目して（必要に応じて、①②、→、＝などの記号づけをしながら）論理関係を押さえる、パラグラフとパラグラフの間の意味関係を理解する、読み終えたときに文章全体の構造がどうなっていたのかを確認する、など様々なものが含まれる。

文章とは単文がランダムに集まったものではな

く、文が有機的につながっている意味のまとまりである。1文1文の理解ができるだけでは文章全体の理解ができていないとは限らず、文のレベルを超えた文章レベルでの理解を深めるためにも、「文章構成の理解」のスキルは有用であると考えられる。

### 3. 終わりに

今回監修させていただいた『Skill Builder スキルで読み解く英語長文』は、様々なリーディング・スキルの中から、1) Phrase Reading, 2) 文のつながり（代用表現の確認、文章構成の理解）、3) 推測（未知語の意味の推測）、4) 予測、5) Paragraph Reading, 6) Skimming, 7) Scanning という7つを取り上げ、大学入試の英語長文問題を題材として、目標スキルのトレーニングを行えるように編集されたものである。「戦略的な読み」の訓練を通して、一般的な英語リーディング能力を向上させ、大学入試問題にも対応できる力を養うことを目指して作成されている、新しいタイプの問題集と言える。

最後に、リーディング・スキルは万能薬ではないことを確認しておきたい。言うまでもないが、効果的なリーディングを行うためには、多様なトピックに関する背景知識、豊かな語彙力、正確な構文力など、様々な知識・能力が必要である。（なお、Skill Builder はこれらについても強化できるように編集されている。）また、読解スキルをうまく活用できるようになるためには、単語（特に基本的な語彙）を素早く認識できること、メンタル・レキシコン（＝頭の中の辞書）から単語の意味を効率的に引き出せること、基本的な英語構文をあまり意識することなく即座に処理できることなどが必要な場合が多い。リーディングとは、文字認識や単語認定などの低次の言語処理から、推論などの高次の認知処理まで様々なプロセスから成り立っており、低次のプロセスが自動化していれば、心的エネルギー（認知心理学では「ワーキング・メモリ容量」とも言われる）を、より高次の戦略的な読みに割くことが可能になるからである。その意味で、地道なボキャブラリー・ビルディング、多読（＝多くの英文を読むこと）などと一緒にリーディング・スキルのトレーニングを行っていくことが重要である。